

Title	工場立地政策とその経営戦略的考察 - A社の事例を中心として -
Sub Title	
Author	長村 恵 氏(Osamura, Keiichi) 小林 規 威
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1982
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001982-0192">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001982-0192</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 長 村 恵 弐 主査 小 林 規 威  
( 恵和商工株式会社 ) 副査 柳 原 一 夫  
所属ゼミナール 小 野 桂之介 研 小 野 桂之介

## 工場立地政策とその経営戦略的考察 — A社の事例を中心として—

工場立地政策（工場体制の基本設計）は、最も固定性の高い経営資源の分配を意味する意思決定であり、従って企業経営戦略策定上重要な要素の筈である。しかし乍ら従来工場立地政策に関する議論はその工場の生産効率・輸送コスト等の総コスト最小化に重点をおいたものが大半である。収益面も含めた総利益最大化に関する議論も少く、まして定性的にしかとらえられない今後の経営戦略策定の中でどの様に工場立地政策を決定していくかという議論は殆ど見うけられない。

本論文では以上の様な観点に立ち、企業経営戦略策定における工場立地政策の重要性と、その取り扱い方について、ある特定企業の事例研究を通じて検討を行った。

事例のA社は需要に先行して常に生産能力を拡張し生産拠点を分散する経営戦略をとり、最近に至る迄、順調な成長を遂げてきた。しかし、今後の経営環境はA社の戦略の転換を必要としている。本論文では先ず過去に於けるA社の工場立地政策の評価を主としてその経済的影響という観点から行い、ついで、同社の今後に於ける経営戦略の中で望ましい工場立地政策の在り方に開する分析と提言とを行った。この研究を通じて企業経営に於ける工場立地政策の重要性、および経営戦略全体の中で、経済性評価と戦略的配慮の両面を統合する形で工場立地政策と経営戦略を決定して行く、一つの方法論を明らかにする事が出来たと考える。